

愛着障害と発達障害の違いと関係を踏まえた支援のあり方

研究の概要

発達障害と混同されやすく、正確なアセスメントがなされないため、支援が困難になりやすい愛着障害、愛着の問題を抱えるこども、大人への支援をするための専門機関、相談機関、連携体制の構築を目指します。愛着障害への支援を阻んできた愛着障害に対する様々な誤解、愛着形成はすべてのこどもと人間にとって必要な人間関係の基盤であり、愛着を意識した人間関係づくりは、こどもの発達の支援として、人間同士のトラブルや争いをなくすための大事なポイントです。また子育て支援、少子化支援にもつながります。

愛着障害と発達障害の違いと見極め方、愛着障害と発達障害の関係を踏まえた支援は、心理的支援、医療的支援、福祉支援の改革につながります。

研究の特徴

保育、教育、福祉の現場、医療、公共、交流の場で愛着の視点をもって、人間関係の支援をしていくためのポイントを発信し、また、その相談に応じることで、人間関係支援の協力機関を増やしていくことで、さまざまな場面での人間交流の円滑化に寄与します。たとえば、暴力や暴言、カスハラ、あおり運転も愛着障害の視点で支援すると効果があります。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

- ・ 摂津市、岸和田市、八尾市、堺市、泉大津市、東大阪市等での保幼小中の巡回相談連携。
- ・ 泉南市等や全国各地での保育所、幼稚園、こども園、学校支援。
- ・ 和歌山市などのファミリーサポートセンター、全国の放課後デイ、学童の取り組みへの支援。
- ・ 児童養護施設、医療機関への支援。

研究者からのメッセージ

愛着の視点での研究でしたら、どこでも、どのようなものでも対応可能です。

研究分野 : 臨床発達心理学・実践教育心理学・人間関係心理学

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学教育学部 心理学・教授・米澤好史

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp